

KI News & Topics

Irregular Newsletter vol,13



大木記念女性のための菊池がんクリニック・ストレスケアセンター
 〒359-1133 埼玉県所沢市荒幡111-1 Tel/04-2928-7311 Fax/04-2928-7306

シカゴにて—ASCO再び [PART 2]

ASCO(米国臨床腫瘍学会)の年次総会が11年6月4日から8日までの5日間、米国イリノイ州シカゴで開催されました。

前号に引き続き、池田悠至Drにレポートをお願いしました。

皆様こんにちは！引き続き池田が2011年のASCOレポートをお送りします。

先日のKI News & Topicsにて分子標的薬ががん細胞にのみ攻撃できる薬剤だとお話しました。ただ、現段階ではこちらも万能薬ではありません。がんは1つの遺伝子のみで原因となっていないという訳ではないからです。もちろん、まだ解明されていない遺伝子異常も多々あります。分子標的治療薬は現時点では有効ではあっても、完璧な治療法ではありません。

そこで、現在は『抗がん剤+分子標的薬』といった組み合わせで多くの細胞にダメージを与えつつ、かつがん細胞に特にダメージを与えるといった治療が主流となっています。組み合わせ方には多数あり、どの組み合わせが最も効果的かを追求するのが近年の国際学会を最も賑わせている話題です。今年度のASCOでは卵巣がんを用いられるCG療法(カルボプラチン、ゲムシタビン)の抗がん

剤の治療に、当クリニックでも多くの方に投与させて頂いている分子標的薬のアバスチンを併用した方が、治療効果が高いという発表が着目を浴びていました(OCEANS試験)。

さて、前回のKI News & Topicsにて本学会は発表する事が大変栄誉になる学会と申し上げましたが、今回菊池がんクリニックからは2件の発表がなされました。発表されたのは、

『The role of bevacizumab in combination with pegylated liposomal doxorubicin in patients with platinum-resistant recurrent or refractory ovarian cancers.』

『Effects of weekly bevacizumab and paclitaxel/carboplatin with or without sorafenib on heavily pretreated patients with recurrent or persistent cervical cancer』

という2題になります。前者は卵巣がんの方に抗がん剤



明け方に見るミシガン湖です。多くのヨットが湖畔に浮かび、ちよっと持ち主の人が羨ましかったです。

わりには常に人だかりが出来ていました。

当クリニックは世界が注目する最新の治療を日本で実際に行える非常に希少な施設です(この詳細は菊池先生の著書「婦人科がん化学療法の前線」をお読み下さい)。

最新治療により一人でも多くの方に笑顔がもたらされれば、私達医療者にとつてこの上ない幸せです。そのため職員一同今後も精進を続けたいと思いますので、よろしくお読みします。

の『ドキシルビジン』と分子標的薬の『アバスチン』とを組み合わせさせた治療、後者は子宮頸がんの方に抗がん剤の『パクリタキセル』カルボプラチン』と分子標的薬の『アバスチン』、『ソラフェニブ』を組み合わせさせた治療になります。菊池先生が考案された治療法で、実際に当クリニックにて行っております。



グランドパークにて。かわいいリスがたくさんいます。